

國學院大學學術情報リポジトリ

2023年度国際研究フォーラム「見られることで何が変わるのか--ツーリズムと宗教文化」報告書

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-21 キーワード (Ja): NDC8:161.3, NDC8:689 キーワード (En): 作成者: 國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001633

開催概要

國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所 2023 年度国際研究フォーラム 「見られることで何が変わるのか—ツーリズムと宗教文化 To Be Seen: Changes Through Interaction Between Tourism and Religious Culture」

2023 年 12 月 17 日、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所では、ツーリズムと宗教文化の関わりを議論のテーマとして設定し、「見られることで何が変わるのか」という題名で 2023 年度の国際研究フォーラムを開催した。ツーリズムはツーリストのまなざしと切り離すことができないが、そうしたツーリズムとの関わりにおいて——すなわち「見られる」ことによって——宗教文化がどのように変化し、継承され、あるいは新しい見せ方を取り入れるのか、四つの事例報告を受けて議論した。開催概要と趣旨を以下に記す。

◇国際研究フォーラム「見られることで何が変わるのか—ツーリズムと宗教文化」

日時：2023 年 12 月 17 日（日）13 時 30 分～17 時 30 分

場所：國學院大學渋谷キャンパス 120 周年記念 2 号館 1 階 2101 教室

報告者（敬称略・発表順）、題目：

- (1) 石本東生 ISHIMOTO Tohsei（國學院大學観光まちづくり学部教授）
「『ギリシャ』：神話とキリスト教の舞台そして観光—文化遺産を活かす共存—」
- (2) 沈昭良 SHEN Chao-Liang（写真家、華梵大學攝影與 VR 設計學系教授）
「写真と社会風景—『STAGE』『Singers & Stages』『台湾綜芸団』を例に—」
- (3) 加藤久子 KATO Hisako（大和大学社会学部教授）
「共生の物語をつむぎなおす—ポーランドに出現した 2.5 次元のユダヤ人街—」
- (4) ケイレブ・カーター Caleb CARTER（九州大学大学院人文科学研究院准教授）
「自分を取り戻す／山里を取り戻す—修験道とツーリズムの交錯」

コメンテーター（敬称略）：

山中弘氏 YAMANAKA Hiroshi（筑波大学名誉教授、日本文化研究所客員教授）

司会：平藤喜久子（國學院大學教授、日本文化研究所所長）

使用言語：日本語

主催：國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所

◇開催趣旨：「見られることで何が変わるのかーツーリズムと宗教文化」

宗教とツーリズムは、グローバル化とあいまって、より一層相互に密接に関わるようになり、宗教文化を資源としてツーリズムを振興しようとする試みは、もはや珍しいものではない。それでは、宗教とツーリズムの交錯によって、どのような変化が生じているのだろうか。

宗教は、それが行われる場において、物体としてのモノや、実践としてのコトを伴うため、そもそも「見られる」ものであることになるが、誰もがスマートフォンを用いて日常的に写真や動画を撮り、かつ即座に発信することが可能になったという現代的な状況において、そのように「見られる」宗教は、どのように変容するのか。あるいは何を見せているのか。他方、それを「見る」人々の側も、見ることを通して何らかに変化しているだろうか。

これは、現代社会における宗教の問題であり、必ずしも日本の宗教文化に限定された話ではない。本フォーラムでは、様々な現場で調査・研究を行っている研究者に、宗教とツーリズムの多様な交錯のあり方について報告してもらい、議論を深めたい。

本報告書には、上記の講演における報告内容をもとに、報告者の方々にご執筆頂いた報告要旨を掲載している。そのため、タイトルや内容など、報告の際のものから若干変更されている場合がある。